編集後記

遊星人編集幹事の野津翔太です．今回の遊星人，連載記事 火の鳥「はやぶさ」未来編では，MMXに続く2030年代前半の戦略的中型計画としてプロジェクト化を目指し検討が進む次世代小天体サンプルリターンミッションに関し，その経緯とミッション内容・サイエンス目標などの最新の検討状況について，黒川宏之さんにまとめて頂いています．また2026年10月20日(予定)の打ち上げに向けて準備が進む火星衛星MMXは二本立てのほか，金星あかつき，系外惑星，海外研究記と，各連載の充実した記事が掲載されていますので，ぜひご覧いただければと思います．また，今号には博士の学位を取得した会員に自己紹介して頂くNew faceの記事が4本掲載されています．New faceの記事は随時募集しておりまして，学位取得後3年以内または学位取得後，日本惑星科学会に入会してから3年以内の会員が対象です．会員に広くアピールすることができるよい機会となりますので，ぜひ投稿をご検討ください．

2026年7月下旬に，英国のExeterで5日間に渡り開催された"Discs on the Exe"という原始惑星系円盤・惑星形成分野の国際研究会に参加してきました．講演や共同研究者との研究議論を楽しんだり，ALMA，JWSTによる最新観測研究などの情報収集もできたりと，個人的に充実した時間を過ごす事ができました．また研究会の中では"Navigating Post-PhD Life"と題した研究者キャリアを考える全体企画セッションが開催されたのですが，アジア方面からの参加者が少なかったことなどもあってか，パネリストの1人として参加することになりました．様々な地域出身の6人の研究者が各地域の典型的なキャリアパスの例や自分の研究者キャリアについて，残念ながら採用されなかった公募の応募経験を踏まえたアドバイスなどやや踏み込んだ話も含めて紹介した上で，会場の若手ポスドクや大学院生の皆さんから寄せられた質問 (事前募集 & その場で挙手)に答えていくという形式でした．個人的にはこの様な場に立ち英語で答えていくのは初めての経験で，なんとか乗り切ったという感覚ではありますが，各国・地域ごとのキャリアパスの違いと共通する悩みなども色々見えてきて，有意義な経験でした．(編集幹事 野津翔太)